

NAB2025 調査報告書 (Web 掲載用)



2025 年 4 月 15 日
OSS BroadNet Inc.

目次

1. 2025 年展示の全体傾向	3
2. 第一日目 (4/7)	4
2.1 West Hall	4
2.1.1 TVU Networks	4
2.1.2 Amazon AWS	5
2.1.3 Amagi	6
2.1.4 Cisco Systems	8
2.2 South Hall	9
2.2.1 Dell Technologies	9
2.2.2 BrainStorm	10
2.2.3 Blackmagic Design	11
3. 第二日目 (4/8)	14
3.1 North Hall	14
3.1.1 Panasonic	14
3.1.2 Canon	16
3.1.2 FOR-A (朋栄)	17
3.1.3 SONY	18
3.1.4 DJI	21
3.1.5 Grass Valley	22
4. その他 (4/9)	24
4.1 Adobe Inc.	24
4.2 LiveU	26

購入者の属する組織内での報告以外の目的での本書の複製・配布・流用・加工を禁じます。
表現の簡便の為、本書中に登場する各企業様の社名への敬称は、全て省略しております。
同様の理由から、各社の登録商標・商標への®または TM マークの付記は、全て省略しております。
本報告書中の記載情報には、各業界紙、各企業 Web サイト、及び、ChatGPT 等による Web 検索の結果を引用しております。

1. 2025 年展示の全体傾向

(NAB Show とは)

・全米放送事業者協会（National Association of Broadcasters, NAB）が主催する世界最大規模の放送・映像・メディア業界向けの展示会およびカンファレンス。NAB の設立は 1922 年（ラジオ放送しかない時代）で、本部はアメリカ・ワシントン DC。全米の主要放送局（ABC, NBC, CBS, FOX など）が加盟している。

・NAB Show は 1923 年にアメリカで初めて開催されたので、今年で 102 年目の開催になった。1950 年代に入りテレビ放送、1980 年代にケーブルテレビや衛星放送、1990 年代にデジタル放送やインターネット、2000 年代にストリーミング、クラウド、4K・8K、2020 年代に AI, VR/AR, 5G, クラウドベースの放送技術など新しいサービスや技術の登場に合わせ規模が拡大してきた。

・開催場所は毎年ラスベガスで、現在では放送のみならず、映画制作、映像制作、ストリーミング、VR/AR、AI、メタバースなど幅広い分の最新トレンドが紹介されている。

・今年の参加者数（登録ベース）は 55,000 で昨年の 61,000 に比べると減少したが、毎年 9 月にオランダで開催される IBC (International Broadcasting Convention) の 2024 年が、来場者数 45,085 であったので、NAB は文字通り世界最大規模の放送機器展である。

(展示会場・Las Vegas Convention Center 通称 LVCC)

・West, North, Central, South の 4 つのホールで構成され、東京ビックサイトの約 2 倍強の広さを誇る 232,000 平方メートル。

・2021 年に West ホールが新設されたあと、従来からの 3 つのホールがリノベーション工事に入り、現在最後の Central ホールが工事中のため、今年の NAB ショーは West, North, South の 3 ホールで開催され、広さは 93,000 平方メートル。IBC は 46,000 平方メートル。



(今年のテーマ・カテゴリー)

・昨年同様「Create (想像)」「Connect (繋ぐ)」「Capitalize (収益化)」の 3 つのカテゴリーに沿って展示企業が分類された。ちなみに 2023 年は「Create」「Connect」「Capitalize」「Intelligent Content」であった。

・一方昨年に続き AI がメインテーマになっており、AI 技術が進化する中、各メーカー共 AI を活用した製品やシステム作りが本格化していることを強く認識できた。特に番組制作・送出の過程であるニュース記事の作成、ファクトチェック、ライブ制作、送出においても AI の活用が進んでいる。

・又コンテンツ制作のツールにも生成 AI の活用が進んでおり、コンテンツ素材の画像加工、文字放送の多言語化処理など作品の質的向上とクリエイターの生産性向上が実現されている。

・一方生成 AI で制作した映像を放送番組で利用することは、著作権の観点からリスクが大きいとされ、今後放送業界がこの重要課題とどう向き合っていくのが注目される。

・近年加速しているライブ番組・ニュース制作の現場における IP 伝送やクラウド活用によるコンパクト化、さらには送出マスターの IP 化により放送局が IP 化し放送業務全体の効率化が、少子化社会がもたらす人材不足という課題解決に繋がると期待されている。